



# 奉仕団ニュース

社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団  
URL: <http://www.jcws.or.jp/houjin/houjintop.html>

第17号 2013年11月

Tel 03-3202-0486  
Fax 03-3202-0487

## みんなで課題を担う

今期（9月11日以降の2年間）は新たに就任した評議員、理事、監事に少しの異動があった。9月21日にアガペセンターを会場に、役員研修会を行った。私は、理事長として「日本キリスト教奉仕団の円滑な運営のために」と題して、今期の法人の課題と理事会のあり方などを巡って発題をさせていただいた。以下はその要約である。

**当法人の理念の確認** 法人の名がキリスト教を冠する当法人の定款は、キリスト教の精神によって運営することが明記されている。これは法人の創立から理事たちの一致した主張である。このキリスト教の精神による運営という理念を常に確認し、今後ともそれを踏襲していきたい。1958年の日本キリスト教奉仕団が創立して以来、時が経ってきた故、この理念は対外的にも、また法人内部にも再浸透させねばならないのが課題である。

**その精神の内容** 理念の担い手は「エキュメニカル」であった。今日も、理事たちは、エキュメニカルな背景をもつ多様な教派的背景をもっている。私はそれを法人の豊かさと理解する。多様性は組織を活発にする。そのキリスト教精神は、「包含的」（インクルーシヴ）でありたい。キリス教理解で特に共有したいのは、言い古された言葉だが、キリスト教(教会)の社会的な責任である。奉仕の働きをないがしろにし、伝道が第一として信仰をただ魂の救い、霊の問題としてしまわない。キリスト教の使命、ミッションを「礼拝、伝道、奉仕」と包含的に理解して、ミッションを遂行する社会福祉の重要性を思う。このことを世と教会に発信していきたい。

**社会の福祉的なニーズと法人の経営の課題** これまでの社会福祉が、行政の措置によって運営されてきたが、

自立支援法以後利用者との契約に変更となり、法人の施設経営の責任と利用者との満足する施設運営が課題となってきた。これまでの個々の施設運営から、法人全体の経営を強化することが求められ、法人全体の統治能力（ガバナンス）の確立と経営能力の向上が課題である。わが日本キリスト教奉仕団は複数の施設をもち、場所も座間、新宿、板橋で福祉を展開し、千代田区の国会図書館の複写を公益事業として請け負っている。確かに統治能力が必至である。しかしガバナビリティーを単なる管理、統治ではなく、パウロが聖書の中で「キリストのからだ」論で展開している、生き生きした共同性を「共に生きる」をめざしたい。

理事長 禿 準一



**法人組織強化・理事会の強化** 上記の課題に対応するために考えて行くべき事として、①経営に責任的に関わるために、理事会、法人本部の強化、②法人の職員、役職員による理念の共有。「私たちの使命」を文章化したい。③「強化」のための布陣、理事会が法人全体に責任をもち、日常的に関る「常務理事会」のような会議を設定する。④法人の中長期の経営の目標を明らかにし、みんながそれに向かって行く。

この発題につき意見・質疑応答が活発にあった。主な項目としては、理事の担当分担について、中期経営計画について、理念の共通理解の推進などである。今後さらに討議を重ねて、法人経営・運営の強化を推進していきたい。

## アガペ誕生と東京オリンピック開催

今秋、2020年のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることが決まったとき、国を上げての興奮ぶりが強く印象に残りました。「おもてなし」の高揚した気分が沸く人たちがいる一方で、別の感慨を抱く人たちもたくさんいます。たとえば、アガペの仲間たちです。

先の東京オリンピックが開催された1964年は、辺り一面桑畑の中に「アガペ授産所（現アガペセンター第1作業所）」が誕生した年でもありました。来年（2014年）は、アガペ創立50周年の節目の年に当たります。



1964年開所当時

アガペ開所当時は、オリンピックだけではなく、東名高速道路や東海道新幹線の開通など、戦後の急速な復活を遂げた人々が心の明るさを取り戻した頃でした。

アガペ誕生のルーツは、法人の理念でもある「アガペ＝神の愛」に基づく社会的使命のリリーフ（救援）から、現実社会の中では遅れていた障害者のリハビリテーション（社会復帰）にありました。



1964年6月開所式

開所から50年、時代のニーズと共に福祉サービスを必要とする人々も変化し続けています。聖書『気をつけて目を覚ましていなさい』の姿勢を忘れず、世俗的にディスカウントせず、「共に生

き共に歩む」ことに職員一同努めて参りました。また、地域の方をはじめ、アガペに関わる多くの人たちの熱意と協力、ご支援を賜り、「アガペ」から数多くの障害者が自信と意欲を身に付け、自立して社会参加して参りました。地域の人々、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

なお、アガペ誕生50年となる2014年は、まず、地域のニーズとアガペの知力をコラボレーションした「アガペ夢のロードマップ」を描き、次に目的と目標・方針を明確にして新たな歴史を歩んで参ります。引き続き、神の祝福と豊かな恵みのなかで共に喜びましょう。（アガペセンター長）



1964年当時作業風景

## ハンモックグループ外出プログラム【電車でGO】

重度の障がいをお持ちの方が通所するハンモックグループはアガペ内でのプログラムの他に、新年の「初詣」、春の「花見」、春と秋の「遠足」、初夏と年の瀬の「電車でGO」



等の外出プログラムがあります。どれも利用者さんに好評です。その中で今回は「電車でGO」の紹介をさせていただきます。

「電車でGO」実施のきっかけは、ハンモックの利用者さんは、日常の生活の中では車での移動が多く、電車に乗ることがあまりないのでは？・電車に乗るのは楽しいかも！・せっかく出掛けるならランチをしよう！という企画で6年前から始まりました。記念すべき第1回目は小田急線の南林間駅から相模大野駅の区間を電車に乗り、相模大野では散歩、ランチをするコースでした。当時、苦労したのはランチ場所探しでした。店内がバリアフリーで、食事の形態（刻み、ミキサー等）に対応して下さるレストランがなかなか無い中で、ようやく1店を見つけました。初回という事もあり、様々な要望をお伝えする中で、お店側も戸惑いながらの受け入れだったようです。料理は美味しく、店員の方は笑顔で気持ち良く対応してくださり、現在も利用させていただいています。

プログラムで要注意なのがエレベーターです。古いエレベーターは、小さいものが多く、車椅子の方が1人乗れる程度です。昼間のプログラムという事もあり、ベビーカーで外出中のお母さん達と協力しながら数回掛けて、ようやく全員エレベーターでの移動を終えます。新しく設置された駅のエレベーターはスペースが広く、グループ全員が一度に通過する事ができるので時間のロスがありません。どの駅やお店のエレベーターも広いスペースがあれば常に思います。他にもエレベーターが点検中になっている時は困ります。再び電車に乗り、エレベーターでの昇降のために、次の駅まで行った事もありました。又、エレベーター前で困っていると、街の方が利用者さんを車椅子に乗ったまま抱えて階段を移動するお手伝いしてくださった事もありました。しかし、私達が慌てたり、パタパタしている時は、何故か利用者さんは楽しそうです。その笑顔で自然にスタッフも笑顔になり、「やるぞー」と団結力が生まれます。いつも利用者さんの笑顔にパワーをもらい助けられています。

「電車でGO」は、公共交通機関を使う事により人との触れ合いがあったり、ちょっと冒険もあったり、利用者さんもスタッフも全員がいつも以上に協力しあえるプログラムとなっています。（地域支援課）

## ケアホームスマイル4年目を迎えて

2011年度の奉仕団ニュースにて、開所1年目のケアホームスマイルを紹介させて頂きました。前回は「初めての事」がテーマとなる紹介でした。あれから約2年、新しい勤務先へ異動された方、他事業所の実習を経験された方、他サービスを活用し外出機会が増えた方、生活スタイルを確立された方など、お1人、お1人の生活の変化とグループ6人の大切な時間を経過することができたのではないかと思います。

この2年間のグループでの生活風景をご紹介させて頂きます。

## ～毎日の食事風景～



## ～クリスマス会～



## ～余暇の時間～



## ～アガペ祭～



来春には隣地に新しいグループホームの開所予定をしています。ケアホームスマイルの3年の経験をいかし、ご本人が望む生まれ育った地域で、充実した新しい地域生活の一助になるために準備をしていきたいと思っております。(短期・地域生活課)

〒175-0082 東京都板橋区高島平9-42-1

アガペ東京センター

Tel 03-3935-2601  
Fax 03-3935-2688

## 東京都板橋福祉工場

今年2月より行っておりました第二工場（仮称）の建築工事も9月末に無事終了しました。



## &lt;就労継続支援A型&gt;

39年間慣れ親しんだ旧工場棟から新築された第二工場（仮称）に場所を移し、新しい環境での業務を再開いたしました。しかし、運営面においては民営化の影響もあり例年にも増して厳しい状況が続いています。

定められた配置職員数の制約がある中で、新規の開拓・受注が急務となっております。今一度、各グループ一体となり、A型事業の安定に向けさらなる努力して行く所存です。



## &lt;就労継続支援B型&gt;

昨年4月の開所から、2年目を迎える事が出来ました。利用者の数も10名から17名に増え、部屋で下請の作業をしていたのが、2つの部屋を使うようになり、より賑やかになりました。



新しく入所をされた利用者の方はもちろんのこと、今まで居た利用者の方達も、倍近い人数に増えた環境の変化に、当初は戸惑いも隠せませんでしたが、今ではすっかり落ち着き、皆さん楽しく過ごして頂いております。作業の方は営業の成果もあって、昨年度より下請事業の受注先が増え、ベーカリー事業の販路の拡大もあり、利用者が増えた分の工賃の確保は、なんとかなされております。また、少しでも工賃アップにつながるようにと、自主製品でビーズを使用したストラップや、



アクセサリーの製作を始めました。丸小という2ミリほどの、とても小さなサイズのビーズを扱い、特色のある製品作りを行っております。



### 国立国会図書館複写受託センター

私たち国立国会図書館複写受託センターは、業務開始より12年目を迎え、この11月には2014年4月からの契約更新に向けて、複写事務委託の提案書提出のために準備に入っているところです。

今回の公募要件は、利用者サービスの一環で複写料金のコンビニ払いの実施と新聞室複写カウンターでの受付業務の請負が新たな項目として追加されました。コンビニ払いの導入に関しては請求ソフトの改修とパソコン・プリンターの入れ替えで500万円弱の先行投資を行いました。

さて、2013年度の複写受託センターは12年度とほぼ同程度の売上で推移して、安定的な運営が続いています。13年1月よりデジタルプリントの料金が30%値下げになりましたが、値下げ分をカバーできるほど利用者が増え、複写受託センターの売上の15%を超えるまでになってきました。国会図書館は資料のデジタル化が急激に進み、複写サービスにおいては、プリントアウトサービスの急増とは逆に、マイクロフィルムからの引伸ばし作業が激減し、今後は資料のマイクロ撮影だけでなくデジタル撮影のサービスも近いうちに始まる予定です。

複写受託センターは複写作業の質的变化に伴う諸問題がありますが、法人の公益事業という立場で今後も安定的な運営ができるように継続して努力していきます。

### 新宿区立新宿福祉作業所

2013年度は新しく2名の利用者さんを迎え、新たな気持ちで作業に取り組んでおります。今年度はチャレンジの年として、幾つかのプロジェクトを立ち上げて実行中です。



NOB Design Room様(通称:NOBさん)と等身大アート(90cm×180cmの和紙に、墨で大きな絵を描く)の制作をしていたところ、一人の利用者さんがとても魅力的な絵を描かれました。とても愛嬌がある可愛い作品であった為、新宿福祉作業所のキャラクターに決定。名前は利用者自治会で話し合い『はなこ』と命名しました。何か形にできないかと考え、NOBさんとお話をして『はなこ』を商品化しようという事となり、NOB Design Room様で商品のデザイン、真広交織様で商品の製造を行っていただいております。ブランド名は『FUKUSAKU HANAKO』11月中には商品ができ、販売を行う予定です。

(NOBさん:1960年代初め、大手鉄鋼会社で非鉄合金の研究をしていて、生まれ育った横浜の地場産業「塗染プリント」の知識と「写真」「絵画」の知識・技術の下に、マンションメーカー(後のDC)の世界で活躍。多くのヒット作を作り現在に至る)

現在、音楽療法の先生(細野さん・鬼さん)に週一回お越しいただき、ピアノやいろいろな楽器を使って、利用者さんの創造性を広げ楽しく活動しています。2010年から継続して活動していただいております。とても嬉しく思います。



先日、先生から「新宿福祉作業所の歌を作っても良いですか」とご提案がありました。作業所を歌にさせていただけるまたとない機会ですので、制作をお願いしました。作業所の活動や皆の気持ちを歌にさせていただける事はとても有り難いです。早くみんなで歌えるようになるのが楽しみです♪

いろいろな活動を通して、利用者さんが楽しく作業できること、自分の役割が持てることを常に考え、地域の方と交流する中で新宿福祉作業所が地域に無くてはならない存在となるよう、職員一同日々支援に励んでまいります。

### スマイルマーケット高島平駅ナカ店

2013年4月より新たに、東京都、板橋区様のご協力によるネットワーク事業として新たな船出となりました。

福祉ネットワークを生かしての店舗運営として、食料品、ベーカリー販売の他、板橋区内福祉施設、作業所、NPO法人等それぞれの特色を生かした手工芸品の共同受注、販売による売上げの増加、施設利用障がい者の工賃向上を目指します。また地域の一般企業様からの受注も視野にいれての販路拡大、食品、手工芸品のみならず請負作業(清掃作業、チラシポスティング、軽作業)等をスマイルマーケット高島平駅ナカ店が受注業務のコーディネートする役割も新たな業務として遂行して行くことになりました。

また店舗での障がい者実習受け入れと合わせて、店舗横でのスマイルマーケット参加福祉施設によるテーブル販売として、施設利用者さんによる販売実習を2013年5月より実施し、地域近傍のお客様に福祉へのご理解、店舗のPRと合わせて商品をお買い上げいただき売上げ増に貢献致しております。6ヶ月平均で店舗売上げ全体の20%を計上しており、お買上げ頂いたお客様から次回はいつくるの?とお問い合わせをいただくまでになりました。

2013年12月でスマイルマーケット高島平駅ナカ店は4周年を迎えます、安定的な店舗運営ができるよう、アガペ東京センター全体との連携を深めた展開ができるよう努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い致します。



### 板橋区障がい者就労支援センター

昨年4月、板橋区からの委託を受けてスタートしたハートワークの取り組みも早や一年八か月が経過しました。



事業所名の通り、障がいを持つ方が適切な仕事を見つけられるようにお手伝いをさせていただくと共に、就労後問題なく仕事を継続いただけるよう、ご本人からの相談をお受けしつつ、会社との間に立って課題解決に向けて調整を図ることなどを主な業務としています。

現在板橋区内に在住の登録者の方々は、610名。うち345名の方が就労されていらっしゃることもあり（2013年9月末現在）、7名の支援員は連日就労先を訪問する傍ら、合同面接会やミニ面接会、更には個別の採用面接へと、飛び回る毎日です。

また、登録者の皆さんが日々意欲的に仕事に携わっていただけると、ハートワークでは発足当初からメンバーどうしの交流と親睦を目的とした余暇活動にも取り組んで来ました。

今年度からは、従来のボウリング大会やクリスマス会、交流会等に加え、仕事帰りにぶらっと立ち寄っていただけたらと、事務所を飛び出し、通常的时间外に駅から最寄りの会場をセッティングし、「ひまわりトークング」と称する出張相談会・しゃべり場を開催しています。

登録者の方々が抱える課題は様々ですが、昨今職場の中で直接仕事に関連して生じていることよりも、通勤途上や、休憩時間、更には生活の場やご家族との関係をめぐる内容が増加しているように見受けられます。

これらの課題に対応する際、従来の就労支援の中では欠かされた職業能力評価やジョブコーチ支援導入などに加え、ご家庭や生活支援施設、更には福祉事務所や精神保健福祉センター、医療機関との連絡・連携なども必須条件となりつつあると言えます。今年度に入り、企業における雇用率が2%に上昇したこともあり、障がいを持つ方々への求人情報は急増していますが、受け入れに際しての職場環境の整備や、専任の担当者配置など、企業側の課題となる面はまだまだ多く、そういった点に対するアプローチを強化しつつ、登録者の皆さんが適切な職場選択を果たし、継続してお勤めいただけるよう今後も支援を充実して行く所存です。

## 法人本部

### アジア研修交流事業

この事業は、アジアにおける障がい者福祉従事者のリーダー育成を目的とする国際協力事業として、1980年から実施しています。東日本大震災などで延期されていましたが、今年度より再開されることとなりました。

今年度の研修生は、ウェン・レオンさんとフー・イーベイさんです。二人は中国にあるホイリン知的障がい者サービスセンターで働いています。

ウェンさんは広報部に所属し、ウェブサイトの制作に携わっています。大腿骨頭壊死症という病気を患っており、移動には松葉づえが欠かせませんが、とても活発な青年です。ウェンさんの病気は、日本では難病に指定されているため、全ての治療を無料で受けられると知り、日本の医療制度に大変驚いていました。中国ではそのような援助がないため、医療制度や障がい者福祉制度など、日本では行政の支援が整っていることに中国との大きな違いを感じていました。

フーさんはソーシャルワーカーとして働いています。大らかで穏やかな性格の一方で、鋭い洞察力を兼ね備えています。研修を通して、中国では利用者に対して障がいによる「出来ない事」を主に方向性を定めてしまう傾向があるけれど、日本では



「出来る事」を主に、どうすればできるかを皆で考えて工夫しているところに非常に感動したと話してくれました。

帰国の際はたくさんの人に見送られ、その中には涙を流される方もおり、意義のある交流が出来たのではないかと実感しました。最後になりましたが、皆様からの尊いご寄附と献金に心から感謝申し上げます。

### 法人事務局

2012年度下半期より2013年上半期の法人事務局の主な動きをご報告申し上げます。

#### ●法人役員の改選

9月11日より2年間の新任期が始まりました。今回の改選で、新しく理事に横野朝彦氏が選任され、丸本忠男理事が退任、新しく監事に橋本直樹氏が選任され、横野朝彦氏は監事を退任されました。また、理事長には禿準一理事が選任され、常務理事には新理事長より樋口哲夫理事が指名されました。

#### ●評議員の改選

新たに評議員に選任されたのは、亀井恒夫氏、木村真理子氏、山田貫司氏の3名です。また、先期で退任された評議員は、坂本正路氏、丸本忠男氏、横川剛毅氏です。退任されました評議員の方々には誌面をお借りして感謝致します。新しく評議員の方々には今後の法人経営に当たり、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

## 法人の概要

名称 社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団  
 所在地 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
 代表者 禿 準一  
 役員 理事長 禿 準一 常務理事 樋口 哲夫  
 理事 安部 明郎 井尻 正彦 齋木 満恵 田中 誠一  
 西村 誠剛 古田 一彦 横野 朝彦  
 監事 橋本 直樹 渡辺 教

アガペサポートセンター(生活介護、相談支援事業)  
 アガペ診療所(公益事業)  
 座間市立もくせい園(生活介護)  
 座間市サニーキッズ(児童発達支援事業)  
 ケアホームスマイル(共同生活介護)

■アガペ東京センター 東京都板橋区高島平9-42-1  
 東京都板橋福祉工場(就労継続支援A型・B型)  
 国立国会図書館複写受託センター(公益事業)  
 新宿区立新宿福祉作業所(就労継続支援B型)  
 スマイルマーケット高島平駅ナカ店(公益事業)  
 板橋区障がい者就労支援センター(公益事業)  
 ■法人本部 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
 アジア研修交流事業(公益事業)

## 事業の概要

■アガペセンター 神奈川県座間市小松原2-10-14  
 アガペ第1作業所(就労継続支援B型・就労移行支援)  
 アガペ第2作業所(就労継続支援B型・就労移行支援・短期入所)  
 アガペ壱番館(施設入所支援・生活介護・短期入所)

## 2012年度決算報告

## 総括貸借対照表

2013年3月31日現在

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	594,443,299	流動負債	220,670,462
現金預金	321,458,875	買掛金	35,421,168
売掛金	94,663,195	未払金	177,606,294
徴収不能引当金	-1,246,591	預り金	7,643,000
商品・製品	115,085	固定負債	313,755,260
仕掛品	62,882	設備資金借入金	252,220,000
原材料	3,666,907	退職給与引当金	61,535,260
未収金	7,606,230	負債の部合計	534,425,722
補助金未収入金	12,771,000	【純資産の部】	
支援費未収入金	150,463,120	基本金	363,035,710
貯蔵品	1,598,105	基本金	363,035,710
立替金	848,275	国庫補助金等特別積立金	1,191,259,612
前払金	2,115,850	その他の積立金	438,985,373
前払費用	287,440	人件費積立金	51,000,000
仮払金	32,926	施設整備等積立金	48,610,986
固定資産	2,073,904,924	移行時特別積立金	322,276,129
基本財産	1,396,704,956	海外派遣事業積立金	242,194
建物	1,257,808,983	海外支援事業積立金	2,006,064
建物付属設備	50,328,401	武間アジア研修交流事業積立金	2,000,000
土地	15,105,460	人材育成積立金	2,850,000
基本財産特定預金	73,462,112	田實相子積立金	10,000,000
その他の固定資産	677,199,968	次期繰越活動収支差額	140,641,806
建物	1,657,341	次期繰越活動収支差額	140,641,806
建物付属設備	28,364,330	(うち当期活動収支差額)	4,540,986
構築物	42,856,343	純資産の部合計	2,133,922,501
機械及び装置	1,204,670		
車輛運搬具	13,578,408		
器具及び備品	34,885,490		
ソフトウェア	3,050,779		
建設仮勘定	46,837,291		
権利	1,927,353		
施設整備等特定預金	48,610,986		
退職給与引当金特定預金	23,332,460		
人件費積立金特定預金	51,000,000		
移行時特別積立預金	322,276,129		
その他の積立特定預金	4,248,258		
人材育成特定預金	2,850,000		
田實相子特定預金	10,000,000		
差入保証金	1,535,000		
福利協会積立金	38,202,800		
預け敷金	720,000		
長期預け金	62,330		
資産の部合計	2,668,348,223	負債及び純資産の部の合計	2,668,348,223



## 資金収支計算書

(自)2012年4月1日 (至)2013年3月31日

勘定科目		予算	決算	差異	備考	
就労支援事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	656,329,200	674,628,107	-18,298,907	
		就労支援事業活動収入計(1)	656,329,200	674,628,107	-18,298,907	
	支出	就労支援事業販売原価	635,635,000	630,586,385	5,048,615	
		販売費及び一般管理費	21,811,000	16,297,366	5,513,634	
		就労支援事業活動支出計(2)	657,446,000	646,883,751	10,562,249	
就労支援事業活動収支差額(3)=(1)-(2)		-1,116,800	27,744,356	-28,861,156		
福祉事業活動による収支	収入	自立支援費等収入	910,396,000	928,845,543	-18,449,543	
		利用料収入	6,430,000	6,396,530	33,470	
		その他事業収入	133,930,000	134,028,984	-98,984	
		経常経費補助金収入	67,164,000	51,525,035	15,638,965	
		寄附金収入	5,800,000	5,807,665	-7,665	
		雑収入	7,189,000	7,246,678	-57,678	
		借入金利息補助金収入	5,580,000	5,579,100	900	
		受取利息配当金収入	1,634,000	1,421,107	212,893	
		会計単位間繰入金収入	94,304,000	94,368,758	-64,758	
		経理区分間繰入金収入	44,013,000	60,721,940	-16,708,940	
	福祉事業活動収入計(4)		1,276,440,000	1,295,941,340	-19,501,340	
	支出	人件費支出	845,127,400	849,375,098	-4,247,698	
		事務費支出	188,271,000	188,272,460	-1,460	
		事業費支出	116,521,000	112,111,025	4,409,975	
		借入金利息支出	5,995,000	5,994,020	980	
		会計単位間繰入金支出	94,549,000	94,368,758	180,242	
		経理区分間繰入金支出	44,013,000	60,721,940	-16,708,940	
	福祉事業活動支出計(5)		1,294,476,400	1,310,843,301	-16,366,901	
	福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)		-18,036,400	-14,901,961	-3,134,439	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	2,300,000	12,391,000	-10,091,000	
		施設整備等寄附金収入	2,650,000	2,660,000	-10,000	
		固定資産売却収入	0	2,574,191	-2,574,191	
		施設整備等収入計(7)	4,950,000	17,625,191	-12,675,191	
	支出	固定資産取得支出	61,663,000	58,870,657	2,792,343	
施設整備等支出計(8)		61,663,000	58,870,657	2,792,343		
施設整備等資金収支差額(9)=(7)-(8)		-56,713,000	-41,245,466	-15,467,534		
財務活動による収支	収入	借入金元金償還補助金収入	30,799,500	30,799,500	0	
		積立預金取崩収入	50,506,500	51,374,570	-868,070	
		その他の収入	0	-9,569	9,569	
	財務収入計(10)		81,306,000	82,164,501	-858,501	
	支出	借入金元金償還金支出	40,000,000	40,000,000	0	
		積立預金積立支出	20,191,000	20,352,046	-161,046	
		その他の支出	130,000	140,883	-10,883	
		流動資産評価減等による資金減少額等	5,000	572,277	-567,277	
		財務支出計(11)	60,326,000	61,065,206	-739,206	
	財務活動資金収支差額(12)=(10)-(11)		20,980,000	21,099,295	-119,295	
予備費(13)		0	0	0		
当期資金収支差額合計(14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)		-54,886,200	-7,303,776	-47,582,424		
前期末支払資金残高(15)		378,585,818	378,593,415	-7,597		
当期末支払資金残高(14)+(15)		323,699,618	371,289,639	-47,590,021		

## 事業活動収支計算書

(自)2012年4月1日 (至)2013年3月31日

		勘 定 科 目	本年度決算	前年度決算	増減
就労支援事業活動の部	収入	就労支援事業収入	674,628,107	765,419,913	-90,791,806
		引当金戻入	2,114,774	1,519,391	595,383
		就労支援事業活動収入計(1)	676,742,881	766,939,304	-90,196,423
	支出	就労支援事業販売原価	641,048,231	707,250,153	-66,201,922
		販売費及び一般管理費	17,832,546	42,949,005	-25,116,459
		徴収不能額	568,977	427,537	141,440
		引当金繰入	1,246,591	1,623,324	-376,733
	就労支援事業活動支出計(2)	660,696,345	752,250,019	-91,553,674	
	就労支援事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	16,046,536	14,689,285	1,357,251	
福祉事業活動の部	収入	自立支援費等収入	928,845,543	832,440,205	96,405,338
		利用料収入	6,396,530	7,576,541	-1,180,011
		その他事業収入	134,028,984	120,399,082	13,629,902
		経常経費補助金収入	51,525,035	146,708,963	-95,183,928
		寄附金収入	5,807,665	7,612,799	-1,805,134
		雑収入	5,474,848	5,708,969	-234,121
		借入金元金償還補助金収入	30,799,500	30,799,500	0
		引当金戻入	727,258	231,035	496,223
		国庫補助金等特別積立金取崩額	60,783,984	53,671,215	7,112,769
		福祉事業活動収入計(4)	1,224,389,347	1,205,148,309	19,241,038
	支出	人件費支出	841,502,268	785,931,045	55,571,223
		事務費支出	188,272,460	194,536,360	-6,263,900
		事業費支出	112,111,025	106,224,677	5,886,348
		減価償却費	102,130,666	93,226,831	8,903,835
徴収不能額		0	42,432	-42,432	
引当金繰入		6,348,391	6,122,312	226,079	
	福祉事業活動支出計(5)	1,250,364,810	1,186,083,657	64,281,153	
	福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)	-25,975,463	19,064,652	-45,040,115	
事業活動外収支の部	収入	借入金利息補助金収入	5,579,100	6,431,500	-852,400
		受取利息配当金収入	1,421,107	2,073,503	-652,396
		会計単位間繰入金収入	97,833,417	37,380,329	60,453,088
		経理区分間繰入金収入	63,488,645	178,938,343	-115,449,698
			事業活動外収入計(7)	168,322,269	224,823,675
	支出	借入金利息支出	5,994,020	6,879,240	-885,220
		会計単位間繰入金支出	97,833,417	37,380,329	60,453,088
		経理区分間繰入金支出	63,488,645	178,938,343	-115,449,698
		資産評価損	3,300	56,300	-53,000
		事業外雑損失	131,573	406,073	-274,500
	事業活動外支出計(8)	167,450,955	223,660,285	-56,209,330	
	事業活動外収支差額(9)=(7)-(8)	871,314	1,163,390	-292,076	
	経常収支差額(10)=(3)+(6)+(9)	-9,057,613	34,917,327	-43,974,940	
特別収支の部	収入	施設整備等補助金収入	12,391,000	24,495,000	-12,104,000
		施設整備等寄附金収入	2,660,000	3,160,000	-500,000
		その他の特別収入	10,478,590	-5,377,077	15,855,667
			特別収入計(11)	25,529,590	22,277,923
	支出	固定資産売却損・処分損(売却原価)	1,442,832	1,867,054	-424,222
		国庫補助金等特別積立金積立額	0	24,428,500	-24,428,500
		その他の特別損失	10,488,159	1,915,754	8,572,405
	特別支出計(12)	11,930,991	28,211,308	-16,280,317	
	特別収支差額(13)=(11)-(12)	13,598,599	-5,933,385	19,531,984	
	当期活動収支差額(14)=(10)+(13)	4,540,986	28,983,942	-24,442,956	

※ 紙面の関係上全てをお伝えすることはできません。

事業報告書と決算書の内容を詳しくお知りになりたい方は各施設の窓口にお申し下さい。

※ 掲載しています写真は、全て利用者・保護者の了承を頂いております。